

## 平成22年度 事業報告書

### — はじめに —

平成22年度は、記念すべき創立100周年を翌年に控え、その推進力を高める重要な年と位置づけ、事業計画の基本理念として「大阪歯科大学力のアップ」ということを掲げた。すべての事業計画がこの「大学力」という言葉につながり、集約されるよう取り組んできた。具体的には、ここ数年掲げてきた事業計画を精査することにより、本学にとってより重要度の高い課題を浮き彫りにし、改めて事業計画として取り上げた。

特別重点計画として掲げた創立100周年記念事業については、①記念式典、②発祥地・記念碑設置、③記念事業募金、④天満橋学舎・講義室自習室建設、⑤出版物刊行（100年史）、⑥記念講演会・公開講座の当初の計画に、⑦歯科医学の歴史的資料の収集を追加し、7本柱とした。それぞれの準備グループにおいて、リーダーのもと記念事業の具体化に向けた取り組みが進んでおり、本学理事会において進捗状況を集約し、必要に応じ検討・調整を行い、指示を発信している。

教学においては、従来の「5つの力の目標」を基本にその徹底を図り、学生の学力の向上を目指したが、私立歯科大学・歯学部を取り巻く状況は厳しさを増している中で、事業計画の細目で示した教育課程の節目での学生の学力チェックの強化とその相互連携が重要である。

教員人材の育成については、専任教授制度や海外留学経験者特別採用制度など新しく設けた制度が具体化しており、今後、教員人材の育成につなげていきたい。また、教員人材育成の中心となる大学院の充実は重点的に取り組んでおり、成果が上がりつつある。

大学、病院、専門学校を運営していく上で重要な財政基盤の確立・安定化については、給与改革と経費削減方針により10数年にわたる財政の悪化は食い止められ、単年度での収支の均衡化・安定化が図られた。特に附属病院の収支改善・改革が財政安定化の鍵を握っており、重点課題としてきた。教職員の改善・改革への意識も浸透してきており、成果も徐々に現れてきている。

今後も、本学にとって厳しい状況が予想されるが、教育においては建学の精神である「博愛と公益」を基本に据え、社会に役立つ歯科医師の育成を目指すとともに創立100周年という大事業に向け、教職員が一致団結して協力態勢を整えていくことが大切である。

平成22年度は、本学創立100周年記念事業の準備グループの活動も行われる中で、従来の「五つの力の目標」を基本に以下の諸事業を行った。

- I. 教 学
  - 学力の向上
- II. 教員・大学院・研究
  - 教員人材の育成
- III. 財務基盤の確立・安定化
  - 附属病院の収支改善
- IV. 教員組織の制度改正
  - 教員力、教育力の向上
- V. 情報化・IT化
  - 平成21年度の事業計画の継続、推進
- VI. 両専門学校の将来像
  - 平成21年度の事業計画の継続、推進
- VII. 特別重点計画
  - 創立100周年記念事業の推進、具体化

- I. 教 学
  - ・学力の向上
    - 1. 入試倍率のアップ
    - 2. 歯科医師国家試験合格率のアップ
    - 3. 第4学年末での学力点検
    - 4. カリキュラムの学年制化の推進
    - 5. CBT学力と学士試験学力の向上
    - 6. 第5・第6学年を天満橋学舎で教育

○本学の平成23年度の入試結果

本学は、本年度の事業計画の基本理念として「大阪歯科大学力のアップ」を掲げ、その核心を学生の「学力の向上」に置き、そのため入試段階で優秀な学生を確保することを重点課題とした。リクルート進学ネットに大学案内を展開するとともに、学外ホームページの充実に努めた。平成23年度の大学学部の入試志願倍率は、2倍を超えた。

入試選抜方法については、推薦入試に指定校制度を取り入れるなど努力しているが、今後は受験生確保の視点と国家試験合格率の視点の両面から見ていくことが重要であり、入学後の学生のフォローアップを行い、学生一人ひとりの学力を常に把握するべく努めることとしている。

入学生確保の施策であるオープンキャンパスは、平成22年5月30日(日)、7月26日(月)、8月24日(火)、10月30日(土)(大学祭と併催)の計

4回開催され、受験生・保護者等の参加者は、総計延べ221名であった。

なお、新入生オリエンテーション、オープンキャンパスなどの行事に参加するスチューデントアシスタントとして、学部学生18名（第1学年2名、第2学年8名、第3学年4名、第4学年4名）が採用されており、本学での学生生活における様々な経験を生かして活躍している。

#### ○第104回歯科医師国家試験の結果

国家試験合格率については、第104回歯科医師国家試験の合格者数・合格率は新卒者で105名が受験し83名が合格し79%であった。新卒者の全国合格率は81.8%で、私立歯科大学・歯学部だけでは78.5%であった。既卒者を含めた総数では、本学は172名が受験して114名が合格し合格率は66.3%、全体では3,378名が受験し2,400名が合格し合格率は71%であった。

#### ○その他の重点計画

##### 一学部・大学院教育一

第1学年においては、4月入学当初の「新入生研修」、ゼミナール形式の「学長と語ろう」、本学附属病院での「早期臨床体験学習」、大阪府下の社会福祉施設における「社会福祉施設体験学習」などを効率的に実施し、本学の教育システムに適応できるように初年次の学生の資質の向上を図った。

第2学年から第4学年の間の学修の成果を図るべく、第4学年末での学力点検や、次年度以降へのカリキュラムの学年制化の検討、CBT学力と学士試験学力の向上という諸課題については、担当の各先生方に鋭意努力していただいております、成果が上がってきている。

第5・第6学年の天満橋学舎での教育については、平成22年5月から天満橋学舎西館3階に自習室を設置し、機能的な学習環境の充実を行った。創立100周年記念事業の柱である創立100周年記念館（仮称）建設により、一層の整備を図っていくものである。

本学図書館では、学生の学習機会の拡大充実のための取り組みとして、開館時間の延長を継続している。なお、2012年版『大学ランキング』（朝日新聞出版）の中で、歯学系図書館における学生一人当たりの貸出冊数は、私立歯科大学・歯学部の中で第1位＝Aランク（17.3冊）である。

平成22年度のスチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRIP）日本代表選抜大会において、第5学年2名が優勝したことは、歯科関係紙（日本歯科新聞）などで大きく報じられた。

学生が受賞した研究テーマの発想を生んだのは、本学の教育システムすなわち「カリキュラム2000」にある①態度教育、②基礎科学教育、③生命科学教育、④健康科学教育、⑤情報科学教育、⑥英語教育、⑦教養教育の成果であるとともに、学生個人の研鑽の賜物であり健闘を称えたい。(附属資料参照)

国家試験を控えた第6学年に対しては、本学教員(教授、准教授、講師)、本学客員教授を特別アドバイザー32名として配置し、試験に向けた学修サポート体制を充実させた。

在学生の態度規範向上について、本学教員が学生の朝の登学時に楠葉学舎正門で挨拶を行う取り組みを本年度も継続した。

また、昨年度からの継続事業として、外部講師(枚方警察署警部補・山根一雄氏)を招き、薬物乱用防止講演会を平成22年6月25日(金)に開催した。

(参加者:第1学年から第4学年、教職員を含む約500名)

平成23年2月に川添堯彬学長が、平成23年10月からの学長に再選され、平成22年度から平成23年度にかけて現行カリキュラムの改定を含め、継続して多様な教学改革を推進することとなった。これに先立ち、平成23年1月には、新たな目標として、「三つの力の追加目標」を定めた。

すなわち

- ①学生の国際交流力増強
- ②大学院力の増強
- ③研究力の向上

の3項目である。すでに本年度から実行に移されているものがあるが、今後、資金面を含め積極的な支援を検討することとしている。

#### —学生間の国際交流—

我が国のグローバル化の進展とともに、各大学の海外の大学との相互交流が盛んである。本学も教育研究の充実発展のために積極的に学生の交流支援に取り組んでいる。平成22年度の本学の学部学生の交流としては、南方医科大学、シドニー大学歯学部、コロンビア大学歯学部の3大学であり、概要は、次のとおりである。

##### ・受入

大学名	期間	受入人数
南方医科大学	平成22年6月15日 ～21日	学生: 11名 教員: 2名
シドニー大学歯学部	平成22年12月13日 ～18日まで	学生: 6名

・派遣

大学名	期間	派遣人数
コロンビア大学歯学部	平成22年7月16日 ～27日	第3学年5名 第4学年6名 引率教員3名
シドニー大学歯学部	平成22年8月4日 ～16日	第3学年4名 第4学年4名 引率教員3名

大学院の入学者はここ数年、定員を下回っていたが、平成23年度入試においては、受験者確保の観点から入学金を引き下げなどの施策、外国人特別選抜入試を実施したこともあって定員の30名を充たすことができた。外国人留学生特別選抜入試では、海外から初めて中国から3名の合格者があった。(南方医科大学口腔医学院、四川大学華西口腔医学院、西安第四軍医大学口腔医学院の3大学からそれぞれ1名である。)

これら院生が、大学院活性化と学術交流の発展へ寄与するものと期待している。日中両国の架け橋としての第一歩としたい。

## II. 教員・大学院・研究

### ・教員人材の育成

1. 大学院の充実・強化と人材育成
2. 教員採用・昇任基準の規程改正と運用
3. 専任教授制度による人材登用
4. 海外留学経験者特別採用制度の規定化

#### ○教員人材の育成

教育、研究に関しては、教員人材の育成を主眼に取り組んできた。学生を教える力・育てる力、いわゆる教育力は、教育機関においては最も重要な要素である。本学のように学生の将来の職業と教育とが直結している機関では、さらに教員の教育力のもつ重要性は高く、学生が将来、歯科医師として社会に貢献できるかどうかは、人格的な面も含めて教える教員の影響を大きく受けている。

大学院については平成18年に、また大学については平成19年に、設置基準の改正が行われ、いわゆるFD（ファカルティ・ディベロップメント）について、これまで努力義務であったものが、義務化となった。

FDは、「各大学が組織的に実施することを義務付けるものであること。これを踏まえ、各大学においては、授業の内容及び方法の改善につながるような内

容の伴った取組を行うことが望まれること。」とされている。(文部科学省通知)

すなわち大学院設置基準の第十四条の三には「大学院は、当該大学院の授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」となっており、また、大学設置基準の第二十五条の三には同様に「大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」となっている。

本学教員の資質向上に向けては、学部、大学院ともにFD研修会が行われている。平成22年度は、学部で5回、大学院で1回開催されている。日程・テーマ等は次のとおりである。

#### [学部]

##### 第1回

平成22年4月27日(火) 会場：天満橋学舎 参加者77名 内部講師  
テーマ「CBT問題作成のポイント」

##### 第2回

平成22年5月11日(火) 会場：天満橋学舎 参加者62名 内部講師  
テーマ「歯学系OSCEの現状」

##### 第3回

平成22年8月21日(土) 会場：楠葉学舎 参加者32名  
テーマ「多様化する学生への対応」

講師：日本マイクロカウンセリング学会研修委員会委員長 鈴木 祐弘氏  
〃 研修委員会委員 大西 靖子氏

第4回 平成22年10月9日(土) 会場：楠葉学舎 参加者76名  
テーマ「授業の基本」

講師：滋賀県立大学環境科学部教授 倉茂 好匡氏

第5回 平成23年1月21日(金)～22日(土) 会場：ホテルコスモ  
スクエア国際交流センター 参加者35名

テーマ：「歯学系CBT問題作成に関するワークショップ」

講師：(社)医療系大学間共用試験実施評価機構

小口 春久氏(日本歯科大学東京短期大学長)

五十嵐 順正氏(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授)

## [大学院]

第1回のFD研修会が次の日程で行われた。

平成22年8月20日（金）午後3時 楠葉学舎

66名出席（大学院生7名、教員59名）

講師 森田育男氏（東京医科歯科大学副学長、研究担当理事）

「歯学系大学院の問題点—改革に向けて—」

教員力をもった教員を生み出す機関が、大学院であり、大学院の充実・強化を図ることが教育力、研究力のアップにつながる。今後も教育方法の改善に貢献できる内容の設定に努力しなければならない。

平成21年から平成22年にかけて教員組織上の諸規程の施行と改正（定員等に関する規程、教員選考規程等の施行と改正）があり、新たに専任教授職が置かれることになり、また歯科東洋医学室、歯科医学教育開発室、人権教育室が発足し、それぞれ専任教員が配置された。

海外留学経験者特別採用制度については、平成21年9月に海外留学経験者の特別採用に関する規程が制定され、大学院を修了し、海外の大学若しくは研究機関で2年間以上の海外留学経験があり、応募年度に年齢が35歳以下の者が資格要件であり、平成22年度中に1名の採用が決定した。（採用は平成23年4月1日付）

大学院においては、昨年度に引き続きリサーチ・アシスタントを採用（歯科矯正学、口腔外科学第二、歯周病学、欠損歯列補綴咬合学に各1名）した。

従来の枠にとらわれず人材登用の幅を広げることで、本学の教育・研究に活力を与えていくことが期待されている。

教職員に対する人権啓発への取り組みとして、昨年度に引き続き平成23年3月に外部講師（桃山学院大学特任教授・寺木伸明氏）を招き「人権講演会」を開催した。また、恒例の「人権標語」の募集については、学部学生、教職員の応募があり、学長から応募者全員に賞状と記念品を贈呈した。

### —研究の活性化—

本学教員による研究活動については、本年度も積極的に行われている。その中で「競争的資金」による研究に関する平成22年度の主なものは、次のとおりである。

○ハイテク・リサーチ・センター整備事業（事業名「歯周病の戦略的研究」）

平成19年度から5年間の継続事業で、本年度は、文部科学省から書面評価が行われ、プロジェクトの参加者に対して、研究の適切な遂行に努力要請がなされた。現在、事業の水準を満たすべく積極的に研究を推進しているところである。平成22年度は、4,562,000円の補助金額であった。

○平成22年度科学研究費補助金（文部科学省）

基盤研究（C）30件、若手研究（B）10件

合計40件 ①補助金交付額 44,100,000円  
②間接経費 13,230,000円  
①+② 57,330,000円

○平成22年度私立大学等研究設備整備費補助金（私立大学等研究設備等整備費補助金）

Carl Zeiss 共焦点レーザースキャン顕微鏡LSM700  
2ch URGBセット [中央歯学研究所]

補助金額 16,163,000円

○厚生労働省 生育医療研究委託事業 生育医療研究開発事業費  
1件 1,000,000円（直接経費）

○独立行政法人科学技術振興機構 研究成果最適展開支援事業  
1件 2,300,000円（直接経費+間接経費）

○日本歯科医学会 平成22年度総合的研究推進費  
1件 500,000円

・国際学術交流

本学は、昭和56年に上海第二医科大学（現上海交通大学口腔医学院）を皮切りに、平成22年度で合計10大学の協定校となっている。

協定大学名	締結年	内容
上海第二医科大学（現・上海交通大学口腔医学院）	昭和56年	学術交流
広州第一軍医大学（現・南方医科大学）	平成8年	学術交流
華西医科大学（現・四川大学華西口腔医学院）	平成8年	学術交流
西安第四軍医大学	平成8年	学術交流
北京医科大学口腔医学院（現・北京大学口腔医学院）	平成8年	学術交流



協定大学名	締結年	内容
シドニー大学歯学部	平成8年	学生交流
慶熙大学校歯科大学	平成13年	学術交流
コロンビア大学歯学部	平成16年	学術交流
台北医学大学口腔医学院	平成22年	学術交流
ウルグアイ国立大学歯学部	平成22年	学術交流

中国5大学との共同研究で四川大学華西口腔医学院から1名の受入、また上海交通大学医学院附属第九人民医院から1名の受入、本学からは、南方医科大学へ2名の教員が派遣された。(附属資料参照)

なお、平成22年度に新たに学術交流を締結したウルグアイ国立大学歯学部の Susumu Nisizaki 教授が、9月に来日され歯学部4年生に向けて特別講義を行った。講義では、Piezography (ピエゾグラフィ) の手法について解説された。(本学ホームページの最新更新情報参照)

本学教員の海外留学体験講演会が、平成22年9月28日、11月30日の両日、楠葉学舎にて約400名の参加のもと開催された。(附属資料参照)

#### —その他の活動—

##### ○地域社会との交流

今年度も市民を対象とした公開講座(テーマ:「最新の歯科疾患診断からわかるあなたの健康」)を開催した。(附属資料参照)

また、市民へのグラウンド、テニスコートの開放、枚方市又は枚方青年会議所主催のシンポジウムなどに本学講堂を提供するなどの地域貢献の他、枚方市所在の近隣6大学(大阪工業大学、関西医科大学、関西外国語大学、大阪国際大学、摂南大学薬学部、本学)で構成される枚方市との連携活動である学園都市ひらかた推進協議会や、大阪府下の大学で構成される大学コンソーシアム大阪の取り組みに参加した。

### Ⅲ. 財政基盤の確立・安定化

#### ・ 附属病院の改革

1. 収支改善による健全経営戦略
2. 各要因からの増収計画の実践
3. B/C考慮の支出、経費の見直し
4. 各部署の収支改善策を提案、実行

#### ○ 財政基盤の確立と附属病院の改善・改革

法人の財政については、教職員の協力を得て給与改革、経費削減に取り組んだ結果、慢性的な赤字傾向にストップがかかり、平成20年度、平成21年度ともに均衡化した収支状況となり、平成22年度決算においても、収支の均衡化が保たれている。このような状況を維持するためには、財政基盤を安定化させることが不可欠であり、収支均衡化への努力が求められている。これが崩れると運営に支障をきたす事態を招くこととなる。

現状では、赤字体質にある附属病院の収支改善を図ることが、法人の財政安定化の鍵を握っている。附属病院の立地条件、設備、人材等を考慮すると、その潜在能力が十分に発揮されているとは言えず、担当理事からも改善・改革に向けた提案、指摘がなされてきた。教職員にも改革への意識が浸透し、成果が出てきているので、引き続き病院全体として共通の認識に立ってさらに改革を進めていかなければならない。

財政基盤の安定化に大きな影響力を持つ人件費については、指標となる人件費比率が他大学と比べても遜色のない水準にあると考えられる。

なお、平成21年度から導入された病院医員制度は、順調に運用されており、さらに、平成22年9月に臨床系の教員、医療嘱託を対象に、新たに診療報酬手当として規程を整備して創設し、各人のモチベーションの向上と医療収入の増加を図られている。

## ○附属病院の取り組み

地域医療に貢献する附属病院として、従来からの各診療科における活動に加え、平成21年度から設置された「7つの専門外来」（ドライマウス・ドライアイ外来、息さわやか外来、白い歯外来、顎関節外来、口腔腫瘍外来、顎変形症外来、唇顎口蓋裂外来）、先進医療の歯周外科、臨床研修教育、本学附属病院と歯科医院との病診連携など、総合医療機関としての役割を展開している。

平成22年9月には、一般社団法人日本がん治療認定医機構から、同機構の認定研修施設に認定され、一層地域社会の中核病院としての力量が発揮されることとなった。なお、患者サービスの向上を図るべく薬剤の院外処方の導入を検討し、平成23年4月から実施することとなった。

### ・沖縄県巡回診療

厚生労働省の要請による沖縄県（八重山郡竹富町波照間島）への歯科巡回診療が、平成22年10月5日から28日までの間（日曜・祝日を除く）に19日間にわたり行われた。初診患者143名、延べ再来患者395名、総処置件数は1090件であった。また、歯科衛生教育を成人、小中高生、幼稚園・保育園児、乳幼児などを対象に実施した。

### ・歯科医師の派遣

社会福祉法人阪神福祉事業団センター診療所、日本放送協会（大阪放送局）へ歯科医師の派遣を行った。白浜アドベチャーワールドへは動物歯科検診を行った。

### ・臨床研修教育

平成18年度から必修化された歯科医師臨床研修教育について、本学附属病院は制度発足当初から取り組んでいる。

平成22年度の歯科医師臨床研修修了者は、129名（プログラムS32名、プログラムC97名）であった。なお、平成22年度のプログラムC研修歯科医1名については、追加研修となり平成23年4月28日修了となった。前年度に引き続き、臨床研修歯科医症例報告会が開催され、優秀者に病院長賞、優秀賞が授与された。

また、臨床研修歯科医受入施設62施設の指導医師89名に対して本学臨床講師の称号が授与された。

・病診連携講習会

本学附属病院と地域の歯科医院との連携を強化する観点から、平成23年3月26日（土）に開催された。（講習会出席52名）

・地域医療連携室の設置

再構築に向け平成21年度から検討を進めてきたが、平成23年4月に設置することとなった。

・医療安全講習会、院内感染対策講演会

医療安全、院内感染防止に関する取り組みは、昨年度に引き続き、本学教員医療職員の他、外部講師を招いて積極的に実施されている。

- ・「医療安全のための研修」（合計6回）
- ・「院内感染防止対策のための研修」（合計9回）
- ・「医薬品安全のための研修」（合計3回）
- ・「医療機器安全使用のための研修」（合計2回）

○平成22年度における私立大学等経常費補助金

一般補助と特別補助を含めて総額436,904,000円であった。

上記金額の内、140,104,000円が特別補助である。その内容は、

教育・学習方法等改善支援（図書館関係）

インターンシップの推進（社会福祉施設体験学習）

リサーチ・アシスタント支援（大学院関係）

研究施設支援（中央歯学研究所）

戦略的研究基盤形成支援事業（ハイテク・リサーチ・センター整備事業）

ICT活用教育研究支援（学術情報ネットワーク、電子ジャーナル）

など多岐にわたっている。

○平成22年度の施設設備関係整備工事

天満橋学舎において、下記の工事が行われた。

- ①中央監視盤更新工事
- ②南館受電設備更新工事
- ③西館3階自習室改装工事
- ④附属病院MRI（GE社製「Signa HDxt」）更新工事
- ⑤附属病院MRI更新附帯工事（画像配信基盤工事）

#### IV. 教員組織

##### ・教員力、教育力の向上

##### 1. 教員評価

##### 2. 教員評価調査票と授業評価表

##### ○教育力の向上と教員評価

教員評価は、平成21年度に試行期間としてすでに実施しており、教員評価調査票による客観的な評価、授業評価表による学生の評価を通して教育、研究、臨床における自らの姿を再認識してもらい、それをもとにさらに教育力、研究力、臨床力をパワーアップしてもらうことが教員評価の主眼としているところである。平成22年度から本格的に実施したが、その集計結果を待って、評価はネガティブな方向ではなく報奨、顕彰する方向で検討したい。

#### V. 情報化、IT化

##### ・平成21年度の事業計画の継続、推進

##### ○平成22年度の事業

情報化、IT化については、平成22年度は、前年度の事業計画を継続して推進した。平成22年度私立大学等経常費補助金特別補助では、高度情報化推進メニューのICT活用教育研究支援で補助金を獲得し、学内情報基盤の充実を図った。ネットワーク機器等の更新、セキュリティ対策を教育情報センターで一元的に行うこととし、また、平成22年度以降の継続事業としてマイクロソフト包括ライセンス契約を実施し、費用削減が期待されている。

また、学生に対するモバイルサービスの継続、学術情報ネットワーク、電子ジャーナルについて、その充実を図った。

学外ホームページについては、文部科学省により平成23年度から教育情報公開が義務化されることになるため、それに準じた教育情報の公開を進めた。この情報公開は国の補助金交付の対象となる。また、創立100周年のページを立ち上げ、記念事業の概要や募金状況、プレ100周年行事の様子を発信している。オープンキャンパスの案内など学外ホームページは活用されるようになってきているが、アクセス数の多い附属病院などのコンテンツの充実と情報発信が課題となっている。平成22年度は、本学ホームページに32件の新着情報が掲載された。

## VI. 両専門学校の将来像

### ・平成21年度の事業計画の継続、推進

歯科技工士専門学校、歯科衛生士専門学校では、①担当教員により高等学校訪問、②学校説明会の開催、③広報活動の展開（リクルートの進学ネット、ポスターなど）により、志願者の確保に努力している。

歴史と伝統ある専門学校として、歯科技工士・歯科衛生士の国家試験合格率は、ともに好成績を維持している。

平成22年4月に本学理事会のもとに専門学校の大学・短大化に関する検討委員会が発足し、準備方策等の検討を開始したところである。

18歳人口の減少と専修学校への志願者減少という事態を踏まえ、今後、他大学設置の短期大学の先行事例を調査し、歯科総合学園として歴史ある本学にとって、相応しい両校のあり方を慎重に審議することとしている。

## VII. 特別重点計画

### ・創立100周年記念事業の推進、具体化

#### 1. 創立100周年記念事業常任委員会および実行委員会の設置

#### 2. 記念事業の柱

- ① 記念式典・祝宴・慰霊祭 2011年11月11日（金）
- ② 本学発祥の地記念碑設置
- ③ 記念事業募金
- ④ 講義室・自習室建設
- ⑤ 大学100年史・大学院50年史（出版物）
- ⑥ 記念講演会・公開講座
- ⑦ 歯科医学の歴史的資料（史料）収集

#### 3. 第22回日本歯科医学会総会（2012年11月9日～11日）への準備

### ○創立100周年記念事業

平成22年度事業計画の特別重点計画として、創立100周年記念事業の推進・具体化を挙げた。記念事業は、平成21年5月28日の企画委員会で骨子を決定し、理事会承認を得て同年11月11日に発足した「創立100周年記念事業常任委員会・記念事業準備グループ」がそれを引き継ぎ、各グループにおいて準備を進めてきた。記念事業は、上記①～⑥の6つの柱でスタートしたが、「歯科医学の歴史的資料の収集」を追加し7つの柱となった。

平成23年度はいよいよ「創立100周年記念事業実行委員会」を発足させ、各記念事業の進捗状況を集約し、検討・調整を行い、記念事業全体を取りまとめるとともに、記念事業の実施に向けてさらに推進力を高めている。

これまでの各記念事業準備グループ会議の進捗状況は次のとおりである。

① 記念式典・祝宴・慰霊祭

平成23年11月11日（金）に開催される記念式典等に必要な業務全般について、日本コンベンションサービスと契約し進めている。今年度は、主に記念式典等のタイムスケジュール、招待者、記念品、係員の配置等について検討した。広報関係では、ロゴマークおよびマスコットキャラクターを決定し、楠葉学舎、牧野学舎に創立100周年記念の横断幕、附属病院に垂れ幕を設置した。

② 本学発祥の地記念碑設置

本学は明治44年に大阪歯科医学校として設立されているが、その発祥の地である現在の福島区野田4丁目に記念碑を建立すべく活動している。大正時代の本学が記載された地図を発見し、発祥の地が特定できたので、候補地をその付近の野田公園内に決定し、管理者である大阪市と折衝を進めている。記念碑は、本学の名前を記したいわゆる記念碑と碑文を記したものを並列して設置する予定にしている。

③ 記念事業募金

創立100周年記念事業「募金趣意書」を作成し、平成22年12月に同窓生、保護者、教職員に郵送したのを始め、平成23年2月までにすべての募集対象者に約1万4千通を郵送し、また直接訪問し寄付を依頼した。募集要項は下記のとおり。

（募金目的）大阪歯科大学天満橋学舎「100周年記念館（仮称）」建設事業募金

（募集対象）同窓会会員、学生・生徒の保護者、教職員、関連の個人および法人・団体

（目標額）5億円（個人～一口2万円、法人・団体～一口10万円）

（募集期間）平成22年11月1日～平成23年9月30日

平成23年3月31日現在での寄付金額は、

・個人525件 39,056,000円

・法人・団体27件 26,365,000円

合計65,421,000円であった。芳名録は永久保存版を作成する。

なお、一定額以上の寄付者には、創立100周年記念館（仮称）内に寄付者銘板を掲げる。

④ 講義室・自習室建設

準備グループで検討された内容を建設委員会が引き継ぎ、創立100周年記念館（仮称）建設に向け検討を進めている。

⑤ 大学100年史・大学院50年史（出版物）

大学100年史および大学院50年史については、記念式典後1年以内の刊行を目指している。大学100年史は、既刊の「大学史1・2」をもとに70年間のダイジェストにしてまとめ、直近30年間については各種資料をもとに章立てを行い、原稿を作成することになっている。大学院50年史は、通史の部分は大学100年史のなかで記述し、直近10年間の各講座等の業績をまとめることとした。その他、自校史を制作することに決定し、記念式典に配布することとした。自校史の原稿案はできており現在、修正・校正作業を行っている。

⑥ 記念講演会・公開講座

記念講演会は、記念式典翌日の平成23年11月12日（土）にリーガロイヤルホテル・ロイヤルホールで開催することが決まっている。講演者は、「歯科界の将来・臨床研究の方向」について理化学研究所の西川伸一氏、「日本の将来（文化人による講演）」について建築家の安藤忠雄氏に講演依頼し、承諾を得ている。今年度は、プレ創立100周年記念事業として平成22年10月に天満橋学舎で「特別セミナー・ニューヨーク大学 in 大阪歯科大学」、11月に大阪国際会議場で「日中韓学術大会」を開催した。

⑦ 歯科医学の歴史的資料（史料）収集

これまで牧野学舎内に収集した資料や新たに収集する資料を整理し、創立100周年記念行事の期間に合わせてその一部を楠葉学舎において展示する。展示場所は、4号館の史料室を想定しており、展示パネル用の原稿および写真の準備を進めている。

○第22回日本歯科医学会総会

平成24年に開催される第22回日本歯科医学会総会の主幹校として準備を進めている。平成24（2012）年11月9日（金）から11日（日）まで開催され、メインテーマは「お口の健康 全身元気—各世代の最新歯科医療—」であり、また、シンボルマークは文楽人形をモチーフにしたものが採用されている。会場は、インテックス大阪、リーガロイヤルホテル、グランキューブ大阪で、専門分科会、認定分科会によるランチョンセミナー、公開講座など多彩なイベントを計画中である。



## 東日本大震災に伴う本学の対応について（報告）

平成23年3月11日に発生しました東日本大震災は、東北地方を中心に人的にも物的にも甚大な被害をもたらしましたことは、ご承知のことと存じます。

（この地震による本学の学生・教職員に人的な被害はなく、物的被害は天満橋学舎で建物の一部に軽微な亀裂が生じましたが、構造上の問題はありませんでした。）

3月15日に、被災された方々への理事長・学長メッセージを本学ホームページに掲載いたしました。その折、この未曾有の事態に際して、本学としての人的・物的支援を行うべく、その意志を表明しました。

《本学ホームページより》

平成23年3月11日に発生しました東北・関東大震災（東日本大震災）により、甚大な被害に遭われた皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。

本学としては、被災地の皆様方へ少しでもお役に立ちたいとの考えから、義援金の募集・物資の支援などの取り組みを行ってまいります。

詳細につきましては、このホームページにてお知らせいたします。

1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

平成23年3月15日

大阪歯科大学

理事長・学長 川添 堯彬

3月17日からは、本学教職員向けに「第一次東日本大震災義援金」を募集することとし、3月末日までに2,946,302円の総額となり、日本赤十字社に寄託いたしました。また、3月18日には日本歯科医師会からの要請に基づき、犠牲となられた方々の身元確認のため本学歯科医師3名の派遣を決定しました。

今後、被災された方々への生活物資（歯ブラシ）の搬送、第二次の義援金の募集など、本学としてできる限りの支援を行うべく鋭意検討中であり、内容については、本学ホームページに逐次掲載させていただきます。

被災地の復興は、国民一人ひとりの願いでもあります。この願いの実現のために、大阪歯科大学は今後も協力してまいりる所存ですので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

[附属資料]

1. 平成 22 年度学生数 ( ) は女子 (平成 22 年 5 月 1 日現在)

大学	第 1 学年	1 3 1 ( 5 3 )	大学院	第 1 学年	2 8 ( 1 4 )
	第 2 学年	1 3 8 ( 5 6 )		第 2 学年	2 4 ( 1 0 )
	第 3 学年	1 5 0 ( 5 1 )		第 3 学年	2 7 ( 1 1 )
	第 4 学年	1 0 9 ( 4 5 )		第 4 学年	<u>1 7 ( 4 )</u>
	第 5 学年	1 2 0 ( 5 0 )			9 6 ( 3 9 )
	第 6 学年	<u>1 3 4 ( 5 0 )</u>			
		7 8 2 ( 3 0 5 )			

歯科技工士専門学校	1 年	2 4 ( 6 )	専攻科 1 年	2 ( 0 )
	2 年	<u>1 7 ( 6 )</u>	専攻科 2 年	<u>6 ( 1 )</u>
		4 1 ( 1 2 )		8 ( 1 )

歯科衛生士専門学校	1 年	5 4 ( 5 4 )
	2 年	2 5 ( 2 5 )
	3 年	<u>1 8 ( 1 8 )</u>
		9 7 ( 9 7 )

2. 第 104 回歯科医師国家試験の結果 平成 23 年 3 月 22 日合格発表

	(総 数)			(新 卒)			(既 卒)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	172	114	66.3	105	83	79.0	67	31	46.3
全国	3,378	2,400	71.0	2,356	1,928	81.8	1,022	472	46.2

3. 平成 23 年度入学試験状況

	(志願者)	(合格者)	(入学者)
[ 大学 ] 推薦入試	6 0	5 4	} 1 2 8
一般入試 (前期)	1 7 7	7 3	
一般入試 (後期)	4 6	2	
[大学院] 一次入試	1 6	1 5	} 3 0
二次入試	1 2	1 2	
特別選抜	3	3	
[歯科技工士専門学校]			
歯科技工士学科	2 3	2 1	1 9
専攻科	1	1	1
[歯科衛生士専門学校]	7 4	5 4	5 4

4. 平成 21 年度会計実査 平成 22 年 4 月 5 日 (月)
5. 大学・大学院入学式 平成 22 年 4 月 6 日 (火) 午前 10 時 (於：楠葉学舎)
6. 平成 22 年度大学新入生研修
  - 平成 22 年 4 月 7 日 (水) 午前 9 時 (於：牧野学舎)
  - 4 月 8 日 (木) 午前 9 時 (於：楠葉学舎)
7. 平成 22 年度 F D 研修会
  - ・第 1 回 平成 22 年 4 月 27 日 (火) 午後 5 時 10 分～ 77 名出席 (於：天満橋学舎)
  - ・第 2 回 平成 22 年 5 月 11 日 (火) 午後 5 時 10 分～ 62 名出席 (於：天満橋学舎)
  - ・第 3 回 平成 22 年 8 月 21 日 (土) 午前 8 時 45 分～午後 4 時 50 分  
32 名出席 (於：楠葉学舎)
  - ・第 4 回 平成 22 年 10 月 9 日 (土) 午前 9 時 30 分～午後 4 時 30 分  
76 名出席 (於：楠葉学舎)
  - ・第 5 回 平成 23 年 1 月 21 日 (金)、22 日 (土) 53 名出席  
(於：ホテルコスモスクエア国際交流センター)

[大学院]

  - 平成 22 年 8 月 20 日 (金) 午後 3 時～ 66 名出席 (院生 7 名・教員 59 名)  
(於：楠葉学舎)
8. 天満橋附属病院西館 3 階学生自習室 (141 席) 完成 平成 22 年 5 月 8 日 (土)
9. 平成 21 年度監事監査 平成 22 年 5 月 13 日、14 日 (於：楠葉学舎)
10. 解剖体慰霊祭 平成 22 年 5 月 14 日 (金) 午後 2 時 (於：四天王寺)
11. 全日本歯科学生総合体育大会壮行会 平成 22 年 5 月 15 日 (土) (於：楠葉学舎)
12. オープンキャンパス (於：楠葉学舎)
  - ・第 1 回 平成 22 年 5 月 30 日 (日) 午後 1 時～午後 4 時 50 名参加
  - ・第 2 回 平成 22 年 7 月 26 日 (月) 午後 1 時～午後 4 時 10 分 71 名参加
  - ・第 3 回 平成 22 年 8 月 24 日 (火) 午後 1 時～午後 4 時 20 分 60 名参加
  - ・第 4 回 平成 22 年 10 月 30 日 (土) 午前 10 時～正午 40 名参加
13. スチューデントアシスタントの採用  
18 名 (1 年 2 名、2 年 8 名、3 年 4 名、4 年 4 名) を採用

14. 大学特待生の採用  
第2学年2名、授業料100万円免除  
第3学年1名・第4学年1名・第6学年2名、授業料半額免除
15. 大学学内奨学生選考  
10名の学生に対して総額8,300,000円の奨学金を貸与
16. 平成22年度教職員子弟の大学授業料減免  
8名減免 計8,000,000円
17. 平成22年度共用試験歯学系C B T並びにO S C E  
・C B T 平成22年6月8日(火)午前9時30分(於:楠葉学舎)  
・O S C E 平成22年6月20日(日)午前9時 (於:天満橋学舎)
18. 平成22年度薬物乱用防止に関する講演会(於:楠葉学舎)  
平成22年6月25日(金)午後4時15分～午後5時15分  
講師:枚方警察署・山根 一雄 警部補 受講学年:1年～4年 500余名出席
19. 大学父兄会・共済会総会(於:楠葉学舎)  
平成22年7月3日(土)午後1時 父兄出席者数275名
20. 第42回全日本歯科学学生総合体育大会(当番校:徳島大学)  
平成22年8月1日(日)～11日(水) 本学は第4位
21. 第6学年父兄懇談会(於:楠葉学舎)  
平成22年8月21日(土)午後1時 父兄出席者数62名
22. 平成22年度地方父兄会(和歌山県)(於:和歌山県歯科医師会館)  
平成22年8月28日(土)午後1時 14名出席
23. 第18回公開講座  
・メインテーマ 「最新の歯科疾患診断からわかる あなたの健康」  
・日程 天満橋講座 平成22年9月4日(土)、11日(土)  
受講者延べ293名(於:天満橋学舎)  
枚方講座 平成23年2月26日(土)、3月5日(土)  
受講者延べ324名(於:楠葉学舎)  
(時間はいずれも午後1時～午後3時30分)

24. 海外留学体験講演会（於：楠葉学舎）
- ・第1回 平成22年9月28日（火）午前10時40分～正午 約400名参加
  - ・第2回 平成22年11月30日（火）午後5時～午後6時  
講師：歯科放射線学講座・四井講師、生化学講座・吉川助教
25. 臨床講師の辞令交付式（於：天満橋学舎）  
平成22年10月21日（木）午後5時30分
26. 平成22年度大学祭（テーマ：CHANGE）
- ・体育祭 平成22年10月23日（土）（於：牧野学舎）
  - ・文化祭 平成22年10月30日（土）、31日（日）（於：楠葉学舎）
27. 実験動物慰霊祭 平成22年11月26日（金）午後1時30分（於：牧野学舎）
28. 平成22年度自衛消防訓練 楠葉学舎 平成22年11月29日（月）  
牧野学舎 平成22年11月19日（金）  
天満橋学舎 平成22年10月29日（金）
29. 平成22年度全学教職員忘年慰労会 平成22年12月28日（於：天満橋学舎）
30. 平成23年新年互礼会 平成23年1月5日（於：楠葉学舎）
31. 平成22年度定年退職記念講演会（於：楠葉学舎）
- ・上田 主任教授 平成23年2月19日（土）午後1時～
  - ・豊田 主任教授 平成23年2月19日（土）午後1時45分～
  - ・大東 主任教授 平成23年2月19日（土）午後2時30分～
32. 文部科学省「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議フォローアップ小委員会」実地調査 平成23年2月28日（月）（於：天満橋学舎）
33. 平成22年度解剖体遺骨返還式（於：楠葉学舎）  
平成23年3月4日（金）午後2時 25体
34. 平成22年度卒業式並びに大学院学位認証式  
平成23年3月11日（金）午前10時（於：楠葉学舎）

35. 平成 22 年度歯科医師臨床研修修了証書授与式  
平成 23 年 3 月 25 日（金）午後 2 時 30 分（於：天満橋学舎）
36. 平成 23 年度臨床研修歯科医の募集定員  
単独型研修方式 40 名、複合型研修方式 120 名
37. 平成 22 年度スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRIP）  
日本代表選抜大会にて第 5 学年・岸田瑠加さんと塩谷洋子さんが優勝  
研究テーマ 「う蝕予防を目的としたまんじゅうの製作と研究」
38. 日本がん治療認定医機構より、本学附属病院が認定研修施設に認定  
(平成 22 年 11 月 1 日交付)
39. 創立 100 周年記念事業（本文参照）
40. 学位授与  
学位記番号 甲第 648 号～ 664 号 17 名に学位記授与  
学位記番号 乙第 1547 号～1555 号 9 名に学位記授与
41. 平成 22 年度法人理事会・法人評議員会・主任教授会・教授会・大学院研究科会議
- 1) 法人理事会 18 回開催  
(平成 22 年 4 月 2 日(2 回)、4 月 22 日、5 月 27 日(2 回)、6 月 24 日、  
7 月 29 日、8 月 26 日、9 月 30 日、10 月 28 日、11 月 25 日、  
12 月 28 日、平成 23 年 1 月 27 日、2 月 24 日(2 回)、3 月 24 日(2 回)  
3 月 31 日(持回り))
  - 2) 法人評議員会 4 回開催  
(平成 22 年 4 月 2 日、5 月 27 日、平成 23 年 2 月 24 日、3 月 24 日)
  - 3) 主任教授会 19 回開催  
(平成 22 年 4 月 14 日、5 月 12 日、6 月 9 日、6 月 23 日、7 月 14 日、  
8 月 11 日、9 月 8 日、10 月 13 日、11 月 10 日、11 月 24 日、12 月 8 日、  
平成 23 年 1 月 12 日、1 月 26 日、2 月 3 日、2 月 9 日、2 月 23 日、  
3 月 9 日、3 月 16 日、3 月 30 日)
  - 4) 教授会 2 回開催(平成 22 年 4 月 14 日、平成 23 年 3 月 30 日)
  - 5) 大学院研究科会議 14 回開催  
(平成 22 年 4 月 21 日、5 月 26 日、6 月 23 日、7 月 28 日、8 月 25 日、  
9 月 22 日、10 月 27 日、11 月 10 日、11 月 24 日、12 月 22 日、  
平成 23 年 1 月 26 日、2 月 9 日、2 月 22 日、3 月 23 日)

42. 本学関係 叙位・叙勲の受章者等

1) 叙位

故 織田 正豊 名誉教授 従五位 (平成 22 年 9 月 12 日付)

故 大野敬一郎 名誉教授 正五位 (平成 22 年 12 月 27 日付)

2) 叙勲

専門 30 回 北村 弘 滋賀県 瑞宝双光章 共 20 名

3) 平成 22 年度文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰

附属病院 歯科技工士 主任 西村 謙

43. 教職員数 (平成 23 年 3 月 1 日現在 : 3 9 5 名)

1) 大学 3 7 7 名

教員数 1 9 8 名

学長 1 名、主任教授 2 5 名、専任教授 2 名、准教授 3 2 名、講師 5 3 名、

助教 7 8 名、病院教授 3 名、病院准教授 2 名、病院助教 2 名

職員数 1 7 9 名

事務・技術 7 6 名、医療 1 0 1 名、労務 2 名

2) 歯科技工士専門学校 1 1 名

教員 7 名、事務 4 名

3) 歯科衛生士専門学校 7 名

教員 5 名、事務 2 名

44. 人事

1. 就任

1) 法人役員

理事長	川添 堯彬
常務理事 (総務兼財務担当)	下村 錢三郎
常務理事 (教学兼財務担当)	田中 昭男
常務理事 (教学兼人事担当)	諏訪 文彦
理事 (教学兼人事担当)	覚道 健治
理事 (総務兼人事担当)	三谷 卓
理事 (調査担当)	岡 邦恭
理事 (調査担当)	橋本 猛伸
理事 (総務兼財務担当)	藤野 明
理事 (財務兼人事担当)	伊達 洋彦
監事	古川 壽男
監事	前田 眞治

2) 法人評議員

池尾 隆、生駒 等、井堂 孝純、今井 徳子、岩井 康智  
岩田 明、岩間総一郎、大浦 清、太田 謙司、岡 邦恭  
恩田 信雄、蒲生 洵、河合 正治、川添 堯彬、神原 正樹  
黒川 森夫、小正 裕、酒井 昭則、佐ノ木幸夫、下村謙一郎  
下村錢三郎、末瀬 一彦、鈴木 實、大東 道治、田治米保夫  
玉置 敏夫、堂前 尚親、豊田 紘一、中谷 讓二、西川 泰央  
新田 孟、林 秀彦、福島 久典、北條 博一、松田 毅  
水野 良行、三谷 卓、森田 章介、吉本 一馬

3) 法人顧問 増田 次郎

2. 名誉教授称号授与 堂前 尚親 (平成 22 年 10 月 1 日付)

3. 退任

1) 教授退職に伴う退任 法人評議員 豊田 紘一 共 3 名

2) 死亡退任 法人評議員 白神 進 (平成 22 年 6 月 21 日付)

4. 退職

1) 定年退職

物理学教室 主任教授 豊田 紘一 共 10 名

2) 依願退職

内科学講座 主任教授 堂前 尚親 共 15 名

5. 昇任

臨床研修教育科 専任教授 前田 照太 共 16 名

6. 任用

1) 専任教授

歯科医学教育開発室 博士 (歯学) 王 宝禮

2) 准教授移行任用

総合診療・診断科 病院准教授 永目 誠吾 共 4 名

3) 講師移行任用

総合診療・診断科 病院講師 辰巳 浩隆 共 7 名

4) 助教移行任用

総合診療・診断科 病院助教 樋口 恭子

5) 助教

化学教室 博士 (工学) 津田 進 共 6 名

6) 大学院教員

大学院教授 諏訪 文彦 共 22 名、大学院准教授 竹村 明道 共 19 名

大学院講師 戸田 伊紀 共 27 名、大学院助教 真下 千穂 共 24 名

7) 職員

法人事務部 事務部長 長谷山 則夫 共 12 名



7. 定年退職後の再雇用  
 図書課 事務職員 伊藤 淑子
8. リサーチ・アシスタント採用  
 解剖学 RA 江原 大輔 共5名
9. 所属異動  
 病院事務部事務長 前野 隆 共6名
10. 兼務  
 病院事務部副事務長 赤羽 稔
11. 兼務解除  
 歯科衛生士専門学校事務室室長・総務課人権室室長 種坂 隆志
12. 出向  
 口腔外科学第一講座 助教 福地 和秀 (継続)
13. 委嘱
- 1) 大学役職者 (平成22年4月1日付)
- |            |       |
|------------|-------|
| 副学長        | 豊田 紘一 |
| 総務部長       | 小正 裕  |
| 教務部長       | 田中 昭男 |
| 学生部長       | 諏訪 文彦 |
| 図書館長       | 神原 正樹 |
| 附属病院病院長    | 覚道 健治 |
| 大学院研究科科長   | 大浦 清  |
| 中央歯学研究所所長  | 西川 泰央 |
| 教育情報センター所長 | 福島 久典 |
| 国際交流部長     | 清水谷公成 |
| 附属病院副病院長   | 森田 章介 |
| 附属病院副病院長   | 林 宏行  |
| 附属病院副病院長   | 上田 雅俊 |
- 2) 名誉客員教授  
 大阪歯科大学歯科技工士専門学校 名誉校長 玉置 敏夫
- 3) 客員教授  
 大阪歯科大学附属病院 元病院教授 北條 博一 共7名
- 4) Visiting Professor  
 韓国慶熙大学校歯科大学 主任教授 朴 榮國 共8名
- 5) 平成22年度講師 (非常勤) 解剖学講座 清水 孝治 共418名  
 平成22年度大学院講師 (非常勤) 解剖学 牧草 一人 共48名  
 (以上 平成22年4月1日付)
- 6) 嘱託 医療法人稲門会 岩倉病院 精神科医 森 悦子 共11名

(平成 22 年 4 月 1 日付)

- 7) 病院医員 保存修復科 夏木 佐和子 共 61 名  
8) 臨床研修管理運営委員会外部委員  
大阪府歯科医師会 常務理事 (歯科医師) 山口 邦男 共 3 名  
9) 治験委員会外部委員  
千葉大学法経学部 教授 植木 哲  
10) 平成 22 年度ポストドクトラルフェロー  
歯科麻酔学 博士 (歯学) 大草 知佳 共 2 名  
11) 各種委員会委員長

(1) 大学関係 (平成 22 年 4 月 1 日付)

総務部委員会委員長	小正 裕
教務部委員会委員長	田中 昭男
廃棄物処理委員会委員長	小正 裕
図書館運営委員会委員長	神原 正樹
図書資料選択委員会委員長	神原 正樹
学生部委員会委員長	諏訪 文彦
学内食堂管理運営委員会委員長	諏訪 文彦
教育情報センター管理運営委員会委員長	福島 久典
健康管理委員会委員長	堂前 尚親
国際交流部委員会委員長	清水谷公成
学術研究奨励助成金交付審査委員会委員長	
兼共同研究助成審査委員会委員長	田中 昭男
カリキュラム委員会委員長	田中 昭男
共用歯学 C B T 委員会委員長	西川 泰央
共用歯学 O S C E 委員会委員長	山本 一世
ブラッシュアップ委員会委員長	林 宏行
F D 委員会委員長	森田 章介
入試委員会委員長	田中 昭男
公開講座委員会委員長	佐ノ木幸夫
医の倫理委員会委員長	覚道 健治
組換え DNA 実験安全委員会委員長	川合進二郎
動物実験委員会委員長	池尾 隆
セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員長	川添 堯彬
サイバーキャンパス審議委員会委員長	豊田 紘一
ホームページ委員会委員長	豊田 紘一
知的財産委員会委員長	覚道 健治
教員評価委員会委員長	川添 堯彬

大学院委員会委員長	大浦 清
中央歯学研究所委員会委員長	西川 泰央

(2) 法人関係

財務企画委員会委員長	川添 堯彬
財務企画委員会病院の運営に関する事項部会部会長	覚道 健治
財務企画委員会牧野学舎将来計画作業部会部会長	下村 錢三郎
財務企画委員会給与部会部会長	三谷 卓
財務企画委員会経営部会部会長	下村 錢三郎
退職資金管理運営委員会委員長	三谷 卓
業者登録選考委員会委員長	下村 錢三郎
学術研究奨励基金管理運営委員会委員長	下村 錢三郎
環境管理委員会委員長	覚道 健治
枚方資料センター管理運営委員会委員長	覚道 健治
予算委員会委員長	下村 錢三郎
人事委員会委員長	三谷 卓
自己点検運営委員会委員長	川添 堯彬
自己点検実施委員会委員長	川添 堯彬
ODUウェルネス・ホール管理運営委員会委員長	小正 裕
広報委員会委員長	川添 堯彬
人権啓発推進委員会委員長	川添 堯彬
個人情報保護委員会委員長	川添 堯彬
個人情報保護委員会大学部門委員会委員長	豊田 紘一
個人情報保護委員会病院部門委員会委員長	覚道 健治
個人情報保護委員会事務部門委員会委員長	亀井 崇
大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会委員長	下村 錢三郎
資産運用検討委員会委員長	伊達 洋彦
学校法人大阪歯科大学利益相反検討委員会委員長	覚道 健治
専門学校の大学・短大化に関する検討委員会委員長	三谷 卓
・大阪歯科大学創立 100 周年記念事業準備グループ	
《記念式典・祝宴・慰霊祭》リーダー（責任者）	覚道 健治
《本学発祥の地・記念碑設置》リーダー（責任者）	下村 錢三郎
《記念事業募金》リーダー（責任者）	川添 堯彬
《歯科医学の歴史的資料（史料）収集》リーダー（責任者）	覚道 健治
・創立 100 周年記念館（仮称）建設委員会委員長	川添 堯彬

12) 学年指導教授並びに助言教員

学年指導教授 1 年（131 名）藤原 眞一、2 年（138 名）武田 昭二

3年 (150名) 西川 泰央、4年 (109名) 山本 一世  
 5年 (120名) 岡崎 定司、6年 (134名) 松本 尚之  
 副学年指導教授 6年 清水谷公成、小正 裕  
 助言教員 1年 上田 甲寅 共6名、2年 中塚美智子 共6名  
 3年 大島 浩 共6名、4年 川崎 弘二 共6名  
 5年 飯田 拓二 共6名、6年 柏木 宏介 共6名  
 (平成22年4月1日現在)

13) 平成22年度第6学年特別アドバイザー 有田清三郎 共32名

14) 平成22年度学友会会長 上田 雅俊

#### 45. 学外活動

##### 1) 教授海外視察

歯周病学講座 主任教授 上田 雅俊

##### 2) 教員海外研修

口腔外科学第二講座 助教 吉本 仁 共2件

##### 3) 教員海外出張

口腔衛生学講座 主任教授 神原 正樹 共114件

##### 4) 教員学外派遣

歯科放射線学講座 助教 秋山 広徳 (新規) 共36件

##### 5) 共同研究員受入

大阪医科大学 麻酔学教室 大学院生 塩見 真由美

受入講座：内科学講座 (期間：平成22年4月1日～平成23年3月31日)

##### 6) 外国人研究員受入

上海交通大学医学院附属第九人民医院

口腔予防児童科 口腔医師 陳 曦

受入講座：口腔衛生学講座 (期間：平成22年8月1日～10日) 共1件

##### 7) 国際交流

###### (1) 中国5大学との共同研究

###### ・受入

四川大学華西口腔医学院 1名 (期間：平成22年9月13日～10月4日)

###### ・派遣

南方医科大学 (期間：平成22年11月13日～16日)

口腔外科学第二講座 覚道主任教授、大西講師

###### (2) 新海外学術交流協定校

・台北医学大学口腔医学院 (平成22年5月31日締結)

・ウルグアイ国立大学歯学部 (平成22年12月20日締結)

###### (3) 海外協定校との学生交流

・受入

南方医科大学 学生 11 名、教員 2 名（期間：平成 22 年 6 月 15 日～21 日）

シドニー大学歯学部 学生 6 名（期間：平成 22 年 12 月 13 日～18 日）

・派遣

コロンビア大学歯学部 学生 11 名（3 年 5 名、4 年 6 名）

引率教員：岡崎主任教授、川本助教、吉川助教

（期間：平成 22 年 7 月 16 日～27 日）

シドニー大学歯学部 学生 8 名（3 年 4 名、4 年 4 名）

引率教員：山本主任教授、橋本助教、益野助教

（期間：平成 22 年 8 月 4 日～16 日）

#### 46. 補助金・助成金

- 1) 平成 22 年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金交付（10 件）

助成金交付額 3,500,000 円

- 2) 平成 22 年度大阪歯科大学共同研究助成金交付（1 件）

助成金交付額 3,000,000 円

- 3) 平成 22 年度科学研究費補助金交付（文部科学省）

・基盤研究（C） 30 件

・若手研究（B） 10 件 計 40 件 補助金交付額 44,100,000 円

（間接経費 13,230,000 円 合計 57,330,000 円）

- 4) 平成 22 年度私立大学等経常費補助金交付額 436,904,000 円

- 5) 平成 22 年度私立大学等研究設備整備費等補助金

（私立大学等研究設備等整備費）交付額 16,163,000 円

- 6) 平成 22 年度臨床研修費等補助金交付額 198,855,000 円

- 7) 国際交流助成

薬理学講座 助教 石塚 智子 共 47 名に対し 12,628,436 円の助成

- 8) 寄贈

大阪歯科大学第 28 回卒業生（庚申会） 共 5 件合計として 2,160,000 円

#### 47. 諸規程

- 1) 大阪歯科大学大学院学則（一部改正）

- 2) 大阪歯科大学客員教員規程（一部改正）

- 3) 大阪歯科大学学則（一部改正）

- 4) 大阪歯科大学歯科技工士専門学校学則（一部改正）

- 5) 大阪歯科大学臨床准教授等の称号の付与に関する規則（施行）

（以上 平成 22 年 4 月 1 日付）

- 6) 学校法人大阪歯科大学旅費規程（一部改正）

- (平成 22 年 5 月 27 日付、平成 22 年 10 月 28 日付)
- 7) 学校法人大阪歯科大学旅費規程内規 (一部改正)  
(平成 22 年 5 月 27 日付)
  - 8) 大阪歯科大学附属病院プログラムC (複合型) 副プログラム責任者部会規程  
(施行) (平成 22 年 6 月 2 日付)
  - 9) 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校保護者会会則 (一部改正)  
(平成 22 年 6 月 14 日付)
  - 10) 専門学校の大学・短大化に関する検討委員会規程 (施行)
  - 11) 専門学校財政改善等検討委員会の廃止に関する規程 (施行)  
(以上 平成 22 年 6 月 24 日付)
  - 12) 大阪歯科大学教員海外研修規程 (一部改正)  
(平成 22 年 7 月 14 日付)
  - 13) 院内感染防止委員会規程 (一部改正)  
(平成 22 年 7 月 14 日付、平成 23 年 3 月 24 日付)
  - 14) 物件の管理規程 (一部改正)  
(平成 22 年 7 月 29 日付)
  - 15) 健康管理委員会規程 (一部改正)  
(平成 22 年 8 月 1 日付)
  - 16) 学校法人大阪歯科大学教員の定員等に関する規程 (一部改正)
  - 17) 大阪歯科大学楠葉学舎来訪者入構に関する規則 (施行)  
(以上 平成 22 年 8 月 26 日付)
  - 18) 学校法人大阪歯科大学給与規程 (一部改正)
  - 19) 学校法人大阪歯科大学診療報酬手当規程 (施行)  
(以上 平成 22 年 9 月 30 日付)
  - 20) 学生の通学が困難となる事由が発生した場合の授業等の取扱い規程 (施行)
  - 21) 専攻科研究生の授業料免除に関する内規 (施行)  
(以上 平成 22 年 11 月 25 日付)
  - 22) 大阪歯科大学学位規程 (一部改正)  
(平成 22 年 12 月 28 日付)
  - 23) 再入学申合せ事項 (一部改正)  
(平成 23 年 1 月 12 日付)
  - 24) 大阪歯科大学附属病院インфекションコントロールチーム要項  
(平成 23 年 3 月 24 日付)